

蔣経国第3代台湾総統は台湾民主化の父だ

高井 晋

来年1月に予定されている台湾総統選挙は、民進党（与党）の頼清徳副総統、国民党（野党）の侯友宜現新北市長、民衆党（野党）の柯文哲前台北市長と3人の候補者が出そろった。

新聞報道によると、5月の世論調査での支持率は、「防衛力を高め、中国の侵攻に抵抗し台湾を守る。総統選は民主主義か専制かの選択になる」と主張する頼氏が36%、「戦争を引き起こすリスクを最大の努力で避ける。防衛力を高めながら互いに交流する」という侯氏が28%、「平和を望むが台湾は自主性を保つべきだ。保てないなら戦うしかない」と主張する柯氏が25%となっている。



(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%94%A3%E7%B5%8C%E5%9B%BD>)

台湾国民が政党の選択肢を獲得し、選挙権が行使できるのは、1978年5月に第3代台湾総統となった蔣経国が国民党以外の政党を承認したからに他ならない。

中華人民共和国は、建国以来、今日に至るまで共産党の1党独裁下にあるが、蒋介石が統治した台湾は国民党の1党独裁下にあった。

ロシアに留学しロシア人と結婚した蔣経国は、国民党内の混乱期を乗り越え第3代台湾総督に選出された。それまで台湾の経済界や政界の大物のほとんどが中国大陸出身者（外省人）であったが、蔣経国は、台湾出身者（本省人）の抜擢にも力を入れ、国民党の副総統だった李登輝は、民主的な選挙の結果、第4代台湾総督となっている。

また、38年間も継続してきた戒厳令を1987年7月に解除し、蒋介石初代総統が決して諦めなかった「大陸反攻」を止めたのも蔣経国元総統であった。

懐が広く台湾の民主化を推進した蔣経国元総統の功績を偲んで、7年かけて建設された「経国七海文化園區」が2023年1月22日に開幕セレモニーが行われた。



(<https://jp.rti.org.tw/news/view/id/94721>)

セレモニーに出席した蔡英文総統は、台湾の経済、民主化、台湾海峡兩岸の交流促進に貢献してきた蔣経国元総統をより深く理解させ公正な評価を与えなければならないと挨拶し、長く続いた台湾社会における外省人と本省人との間のわだかまりが解消される期待を表明した。

文化園区内には、蔣経国元総統夫妻が生前最も長く住んでいた「七海寓所」と台湾初の総統図書館「蔣経国元総統図書館」があり、蔣経国元総統の一生に関する資料、文物が所蔵されている。

[第9回日台戦略対話](#)に参加したSSRIのメンバーは、帰国当日の5月20日午前「経国七海文化園區」を見学し、説明員から詳しく話を聞いた。



晩年の蔣経国元総統夫妻の質素な暮らしぶりが印象的であった。

同文化区は、入館希望者が多く事前の予約が必要であったが、邱研究員のご尽力で問題なく入館できた。お陰様で、我々は、初めての日本人入館者の荣誉を担うことができたのであった。